

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和5年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標			事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
					項目	R03現状	(R05目標) R05現状			
1 社会を生き 抜く力の育 成	①学ぶ意 欲を高め、 確かな学力 を育む教育	1 基礎学力定着のための環境整備	・「GIGAスクール構想」を踏まえ、今後のICT機器の導入・更新の年度整備計画を策定する。	MDM化、i-filterの導入	ICT環境整備計画策定・実施	未策定	(実施・見直し) 未策定	実施・見直し	C 課題あり	他市町村の動き、全国的な流れ等整備計画に必要な情報を集めることができなかった。文部科学省からのガイドラインを活用しきれていない。
		2 「個別最適な学び」のための教員の授業力向上	・学力育成策について、指導主事が指導助言・OJTの推進	町内4校に2回ずつの訪問を実施	指導主事の(学力育成のための)年間学校訪問回数	8回	(8回) 8回	8回	B 概ね期待どおり	研究授業等の機会に合わせた訪問を行った。今後も可能な限り学校訪問を実施し、普段の学習の様子把握、改善のための指導助言に努める。
		3 家庭学習の習慣化	・家庭学習時間の確保と内容の充実 ・タブレット端末の家庭学習での活用 ・学習支援館での学習サポート	学習課題の精選 タブレット端末の活用 チャレンジ週間などによる生活リズムの見直し	平日1時間以上学習している児童の割合(小学校6年生)	40%	(59.0%) 53.4%	65%	C 課題あり	調査項目の割合は前年度とほぼ同じであるが、内訳を見ると2時間以上が学習する児童の割合が増加しており、長時間学習する児童と1時間未満の児童との二極化傾向が見られる。同学年が5年時12月に受けた県学力調査でメディア接触2時間以上の割合が高い。家庭と連携してメディアコントロールについて指導していく必要がある。
					平日1時間以上学習している生徒の割合(中学校3年生)	54.2%	(78.0%) 40.0%	85%	C 課題あり	同学年の過去の全国・県学力調査を経年比較すると小6時からの学習時間の減少傾向が見られる(小6全国学調の同項目66.7%)。メディア接触2時間以上の割合が全国より+20%の状態が続いている。中学校での家庭学習の課題の見直し、家庭と連携したメディアコントロールの指導が必要である。
	4 読書活動の推進	・小中学校における読書活動の推進 ・学校・図書館連携による読書活動の推進	朝読書・ボランティアによる読み聞かせなどによる読書習慣作り 図書館を活用した授業の実践	平日30分以上読書している児童の割合(小学校6年生)	51.4%	(32.0%) 33.3%	35%	B 概ね期待どおり	学習支援館を利用している生徒を始め、町内の中学生に対し今年度も、全国模試受験の促しを実施したが、達成するどころか下降状況である。今後、同じ土俵に上がることになるため、受験したくなるように周知方法を検討していく。	
				平日30分以上読書している生徒の割合(中学校3年生)	37.1%	(32.0%) 23.3%	35.0%	C 課題あり	目標値には達しているが、前年度から低下傾向である。美郷町の実態として「家庭に本が10冊以下」という家庭が増加しており、学校図書館・みさと本の森の活用をより一層推進する必要がある。	
	②情報活 用能力の 育成	5 GIGAスクール構想の推進	・ICT教育推進ビジョンの策定と推進 ・ICTを活用した授業づくり ・オンライン学習のための環境整備とスキル向上 ・プログラミング学習の充実 ・教職員・保護者の情報リテラシー及びICT活用能力の向上	美郷町ICT教育推進ビジョンに沿って実施 情報モラル教育に関する教職員研修を実施した。	美郷町ICT活用能力育成計画の策定・実施	策定	(実施・見直し) 実施・見直し	実施・見直し	B 概ね期待どおり	「美郷町ICT教育推進ビジョン」を策定し、その中でICT活用能力育成についても示している。
		6 学校図書館活用教育の推進	・学校司書の配置と学校図書館の整備	町内全ての学校に学校司書を配置 小学校では、学校司書と担任が協力し、授業の内容に関連した図書資料として活用した。 中学校でも同様に図書資料として活用したが、教科担任制となるため授業計画との調整が図りにくい状況があった。	学校図書館の資料等を活用した年間授業数(小学校)	55時間	(66時間) 121時間	70時間	A 期待どおり	学校図書館担当の教諭が図書館司書と連携し、資料の提供や教室図書へのピックアップなど意識的に図書の活用を図っている。今後はこの流れを継続することが課題となる。
	③すこやかな心と体の 育成	7 実体験活動、道徳教育の推進	・自己肯定感を高め、他者理解を図る道徳教育の推進	学力調査やQ-Uアンケートによる実態把握に基づいた指導の実施 人権教育・理解教育の推進	自分にはいいところがあると感じている児童の割合(小学校6年生)	62.8%	(86.0%) 63.3%	90%	C 課題あり	同項目の調査で5年時12月56.7%→6年時4月(全国学調)63.3%→6年時12月72.4%と上昇傾向。中学校と同様に最高学年としての活動で自己肯定感が高まる傾向が見られる。5年時までの自己理解教育、自己肯定感を高める支援が必要である。
					自分にはいいところがあると感じている生徒の割合(中学校3年生)	80.0%	(71.0%) 76.7%	75.0%	B 概ね期待どおり	同学年の2年時県学調から約25%の上昇が見られ、小学校同様最高学年としての活動で自己肯定感が高まる傾向が見られる。1・2年時の支援を改善することでより向上が見込まれる。
		8 学校・家庭・地域連携で体力向上、健康の増進	・保小中家庭が連携して運動意欲や体力向上 ・公民館や地域のイベントを通じて地域で健康増進、子どもたちの体力向上	授業前のトレーニング、記録カードの活用 運動量を確保した体育授業の実践 児童の委員会活動による体力向上の集会	全国体力・運動能力調査における体力合計点(小学校5年生)	55.4点	(59点) 50.0点	60点	C 課題あり	男女ともに50m走、長座体前屈に弱みが見られ、B判定以上とD判定の割合が全国・県平均より高い二極化傾向が見られる。体力向上推進計画に短距離・柔軟性を強化する取組を盛り込み、学校全体で課題に取り組む必要がある。
全国体力・運動能力調査における体力合計点(中学校2年生)					45点	(45点) 52.0点	50点	A 期待どおり	毎年前年度の体力・運動能力調査の結果をもとに各校が体力向上推進計画を作成・実践しており、中学2年全体の平均で目標を達成した。男女別、種目別に見ると課題がある部分があり、今後も各校がそれぞれの課題に応じた取組を検討・実践していくことが求められる。	
9 いじめや不登校が起きない学校づくり	・望ましい学級集団づくり、いじめの早期発見適切な対応 ・SCやSSWと連携して不登校対策	各校での職員間の共通理解を初め、校内研修、道徳や学級活動における指導、相談体制の充実、いじめ防止基本方針の点検と見直しをし、組織的に対応している。	いじめの認知件数のうち、解消したものの割合	85.7%	(96.0%) 79.0%	100.0%	C 課題あり	授業・学校行事など様々な場面を通じた互いを尊重する風土や人間関係づくり、アンケートや教育相談による人間関係の把握と支援などいじめを未然に防止する取組を行っている。児童生徒の細かいトラブルも把握し早期対応していることもあり、いじめの認知件数は増加傾向である。報告されたいじめ事案のうち3/31時点で経過観察中の事案が8件。現時点で再発が確認されていない事案を解決に含めると97%が解決している。		
10 就学援助の充実	・就学援助制度の周知	町内小・中4校の就学時検診時、1日入学時、保護者へ説明した。また、大和地域の民生児童委員協議会開催時に制度説明を行った。	就学援助制度の年間周知回数(新規)	4回	(5回) 6回	6回	B 概ね期待どおり	繰り返し周知することで、対象となる可能性のある家庭からの申請は一定程度ある傾向にあるが、広報等での周知も必要であると感じため改善する。		
④個性や 主体性・多 様性を活か し伸ばす教 育	11 インクルーシブ教育の強化	・子どもたちの特性や背景を理解する方法や能力を高める研修の実施	当初12月開催を予定していたが、講師の都合がつかなくなった。代替日を検討したが開催候補が年度末しかなく教職員の異動や新年度準備と重なるため調整ができなかった。	特別支援教育に関する研修会の実施	未実施	(1回) 未実施	1回	C 課題あり	特別支援教育の担当教職員については鮮度の高い情報提供ができていないが、教職員全体に対して波及できていない実態がある。年間計画の再確認。また関係機関との共催も視野に入れる。	
			年度当初の相談会予定周知及び毎月の実施日に向けたチラシ配布を行った。	教育相談会の年間周知回数	11回	(13回) 10回	15回	C 課題あり	これまで実施していたIP告知放送を実施せず、申込書の配布のみにとどまったため。これまでの取組で保護者の相談会に対する理解が深まり、告知までに予約が埋まることがあった。回数にすると下回るが相談予約が入らなかった月はない。	

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和5年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標				事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
					項目	R03現状	(R05目標) R05現状	R07目標			
		12 異文化への関心を高め、国際感覚を醸成	・英語助手や国際交流員の学校・地域での活用 ・オンライン英会話教室等、英語教育の充実	ALT2名配置 国事業による学習者用デジタル教科書配布	英語の勉強が好きだという児童の割合(小学校6年生)	74.3%	(65.0%) 56.7%	70.0%	C 課題あり	地域で英語を活用できる場が少なく、学級内やALTとのやりとり以外に英語を活用する場面を設けにくい。家庭学習などで英語を用いる機会を確保するよう工夫する必要がある。	評価「B概ね期待どおり」で良いのではないかと回答。令和4年度設問なしで、令和3年度の比較により数値がかなり下がっていたため、この評価にしている。
				ALT2名配置 国事業による学習者用デジタル教科書配布	英語の勉強が好きだという生徒の割合(中学校3年生)	31.4%	(57.0%) 40.0%	60.0%	C 課題あり	地域に外国出身の方が少なく英語を生活で使う場面がない。授業の中でスピーチ・プレゼンテーションなどの機会を確保し、英語のコミュニケーションの体験を積み重ねる必要がある。	

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和5年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標				事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見
					項目	R03現状	(R05目標) R05現状	R07目標			
2 未来を担う 人材の育成	①美郷町 への愛着と 理解	13 学校の学びと地域社会のつながりを感じて主体的に学ぼうとする取り組みの充実	・公民館ふるさと教育の推進 ・地域資源を有効に活用した体験学習の展開 ・保小中12年間のふるさと教育の体系化・系統化 ・学校給食における地場産品の活用と食育	公民館合同で雲海学習会・観察会を実施した。各公民館においては、大人対象の講座において、ふるさとを再発見する機会を設けた。	公民館ふるさと教育の実施回数	12回	(28回) 29回	32回	B 概ね期待どおり	学校との連携が課題であり、学校が行うふるさと教育を発展、補充、深化する活動が効果的であると感じる。各種連絡会議に参加することで、活動内容について協議していききたい。	地元に誇りを持ってほしい。先人たちに感謝を忘れないでほしい。
				これまでの、みさと一くの一の在り方を変更したため、学校でのアンケートで実施したため、これまでと違う結果となっている。	将来美郷町に住みたい(帰ってきたい)と答えた生徒の割合(中学校3年生)	62.0%	(80.0%) 45.0%	80.0%	C 課題あり	R7の目標値80%を達成するためには、ふるさと教育や多世代対話活動等をととして、地域に対する理解や貢献意欲を一層育てていく必要がある。	
				キャリア教育の実践 総合的な学習での職場体験学習(2年時・3年時)など	「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合(中学校3年生)	57.2%	(75.0%) 63.3%	80.0%	C 課題あり	2年時・3年時で計2回の職場体験など、他の市町よりも充実した取組が行われているが、「当てはまる」50%(全国比+10%)、「どちらかと言えばあてはまらない」36.7%(全国比+17%)と二極化傾向が見られる。進路適正の吟味を目指した自己理解と情報活用能力の向上や主体的な学習態度の形成を図る必要がある。	
		自分自身の生き方について考える機会を設けた。 ○小学生と高校生・高校生の参加(13人) ○中学生徒と地域の大人・地域の大人の参加(6人)	小中学校における(美郷版カトリック)に参加した大人(高校生以上)の人数	23人	(40人) 24人	50人	C 課題あり	これまで、中学校では授業での実施をしていたが、授業科目の確保数が優先のため、授業外での実施となった。学校との連携、地域住民の協力が課題であり、協議を重ね、ねらいと活動内容、計画をより明確に関係者に示すことができるように努めていく。			
		地域課題(防災、つながりづくり、獣害対策等)に関する教室、研修会	公民館の「地域課題解決学習」の実施回数	10回	(14回) 9回	16回	C 課題あり	各公民館において、課題意識をもって事業を計画、実施しているが、人権啓発事業を優先していること、防災研修や訓練等は連合自治会で実施している等回数が重ねられなかった。			
		中原家住宅がR6.3.6に文部科学省の官報告示(主屋、新座敷、道具蔵、門及び塀の4件の登録)	文化財登録件数	17件	(22件) 21件	25件	B 概ね期待どおり	中原家住宅の有形文化財登録については、R4年度の登録目標であったが、文化庁移転に伴う理由でR5年度に入り登録ができた。また、「美郷町文化財保存活用地域計画」が策定されたことに伴い、改めて美郷町文化財保護審議会と連携して新たな登録ができるか協議していく。			
	15 文化財の価値づけと維持保存、次世代への継承	・石見銀山街道国史跡追加登録を目指す取り組み ・町内出身の作家作品など文化財の保存・活用 ・文化施設の利活用と文化振興	邑智小学校4年生のふるさと教育で銀山学習、邑智中学校2年生のふるさと教育で粕淵地内の文化財について学んだ。	石見銀山街道を学ぶ学校数	0校	(4校) 2校	4校 (全校)	B 概ね期待どおり	校長会等で授業実施の計画を呼びかけたが、実施は邑智地域の2校にとどまった。特に大和地域の学校への働きかけが必要である。		
			粕淵公民館で小原に関する歴史講座を実施	石見銀山街道を始めとする町の歴史を学ぶ公民館数	2館	(5館) 1館	9館	C 課題あり	他の公民館においては石見銀山街道を題材とした講座の意識が薄く、教育委員会からの働きかけや各館が取り組みやすいメニューの提案が必要である。		
			課内で調査内容の報告書類を回覧した。	古文書解読による町の歴史調査をまとめる取組	0回	(1回) 1回	1回	B 概ね期待どおり	古文書を読む会にテキストを提供し、調査結果をフィードバックしている。発表の場を設ける等、より多くの人に伝える努力をしていくべき。		
	16 人権問題に関する学習機会の提供と差別をなくす実践力の育成	・機関・団体のネットワーク強化 ・研修会や人権の集いを通じて幅広い年齢層へ人権啓発 ・部落差別解消への啓発活動推進 ・感染症に対する正しい知識の普及啓発と偏見差別防止	町同推協講演会(6回) 公民館人権講演会・学習会(9回)	人権・同和教育に関する研修会の年間開催数	10回	(16回) 15回	17回	B 概ね期待どおり	町同推協主催の講演会については概ね計画どおりにできている。公民館の学習会等は合同開催している実態もあり、公民館単位としての回数が重ねられず目標に届かなかった。美郷町の人権課題を見極め、深い学びを達成するため、広く実践者や体験者の講演を企画していく。		
			人権・同和教育連絡会議(10回) みさとほっと・あつと広場(1回) みさとほっと・あつと広場の準備及び人権週間に合わせた展示(1回)	人権・同和教育推進者連絡会議の年間開催数	9回	(12回) 12回	12回	B 概ね期待どおり	本連絡会議は各所属から1名、毎回約15名が参加しており、子どもたちを取り巻く課題や各所属の取り組み等を情報共有している。学校や地域(公民館、隣保館)、行政等が連携して、子どもたちが安心して生活できるよう、また困っている子どもたちに何ができるのか会として意義を確認しながら大切に行う。		
	17 進路保障の取組の充実	・進路保障連絡会の開催と進路保障の視点に基づいた取り組み支援 ・学校と地域が連携した進路保障の取組の推進 ・進路保障の視点に基づいた小中学校の取り組み支援	大和中学校PTA親子研修会(1回) 美郷町PTA連合会(1回)	「子どもの人権」を取り上げた研修会・学習会等の実施回数	1回	(3回) 2回	5回	B 概ね期待どおり	町人権・同和教育連絡会議において保育園、学校、公民館、隣保館等関係機関の参加により、最近の子どもの様子について情報交換はできている。また、様々な人権について、子どもや親も一緒に学ぶような研修会も実施している。今後、進路保障という視点について、様々な研修を通して連携して取り組むことができないか今後も考えていく。		
			人権・同和教育を根底にすえ、日常の全ての活動において、お互いをありのままに受け止め、認め合い助け合うことを大切にしていって視点を持って活動を推進した。	「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(小学校6年生)	88.5%	(89.0%) 93.3%	90.0%	B 概ね期待どおり	人権・同和教育を根底にすえ、日常の全ての活動において、お互いをありのままに受け止め、認め合い助け合うことを大切にしていって視点を持って活動を今後も推進していききたい。		
	18 多様性を認め合い、障害がある人となない人が分け隔てられず、共に学ぶ機会を保障するインクルーシブ教育の充実	・多様性が認められる学校・地域づくり ・新型コロナウイルス感染関連差別の防止	「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(中学校3年生)	「人が困っている時は、進んで助けている」と考える児童数(中学校3年生)	88.5%	(95.5%) 90.0%	97.0%	B 概ね期待どおり	人権・同和教育を根底にすえ、日常の全ての活動において、お互いをありのままに受け止め、認め合い助け合うことを大切にしていって視点を持って活動を今後も推進していききたい。		

基本方針	基本目標	施策	主な取り組み(事業)	令和5年度 事業内容と実施状況	教育振興基本計画の成果指標			事業評価	評価の説明、課題と改善策	外部評価委員の意見	
					項目	R03現状	(R05目標) R05現状				R07目標
3 学校、家庭、 地域の連携・協働による 教育環境の充実	①地域の力を活かした学校づくりの推進	19 地域全体で学校を支援する体制の整備	・学校運営協議会の設置と機能充実 ・ふるさと教育等、異校種間の連携	邑智校区・大和校区それぞれに学校運営協議会を設置。各校区3回ずつ協議会を開催した。	学校運営協議会を設置している学校(コミュニティスクール)の数	0校	(0校) 4校	4校 (全校)	A 期待どおり	校区ごとという形で町内4校全てに学校運営協議会設置が完了した。今後は学校の負担感を増すことなく地域と学校が共働できる仕組みを作っていく必要がある。	子ども会を都賀本郷・長藤で検討中だが、町内の子ども会は何団体あるのか。 回答:6団体
				今年度は、町内の保育園や学校との活動のみであるため、目標を達成することができなかった。高校・大学との連携した活動を広げることで、回数も増加して行くよう努力していく。	異校種間の連携、保・小・中・高・大と一緒にする活動(授業)の実施回数	2回	(11回) 8回	14回	C 課題あり	接続校間の活動は比較的实施しやすいが、そうでない場合(特に高校・大学)は実施が難しい。参加者と繋がることで、継続して美郷町と関りが持てる様、努力していく。	
		20 地域学校協働活動への地域住民の参加・参画	・地域学校協働活動への参加促進 ・地域人材の発掘と活用及び公民館連携の推進	これまでの活動で、継続して実施できていることが嬉しい。事前の打ち合わせにより、活動の目標も達成・実施されている。	学校と地域住民が協働した(事前協議や振り返りを一緒に行う)活動の実施回数	25回	(29回) 29回	33回	B 概ね期待どおり	活動の改善のため、事後の振り返りの充実が課題であると感じるが、継続実施をしていくことで、子どもたちとの関係はつながっている。	
				ふるさと教育を中心に、地域住民が講師を務めたり、ボランティアとして活動に参加し、多くの協力が得られた。邑智地域141人 大和地域104人	学校支援に関わった地域住民の人数	160人	(190人) 245人	200人	A 期待どおり	これまででも、多くの地域の方に参画していただいているが、より多様な地域住民の参加、協力を進めることで、地域が元気になって行くとうれしいと感じる。	
	②子どもを中心に据えた地域づくりの推進	21 地域学校協働活動(放課後支援)への地域住民の参画	・放課後子ども教室の企画運営に保護者や地域住民が参画 ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携	今年度も、楽しい活動が実施できた。【児童クラブ】チェーンソーアート・バルーンアート【子ども教室】大和地域での宿題等の勉強会/町全域でのスキー教室	放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動に地域住民がスタッフとして運営に携わった活動の実施回数	0回	(3回) 4回	4回	A 期待どおり	特に子ども教室において、地域の方の企画による参画があった。今後は広く地域の方に積極的に関わっていただけるよう学校や地域と連携し、子どもたちが楽しめる取り組みにしていきたい。	評価は、「A期待どおり」で良いのではないかと回答。課題はあるが、見直す。
				町内保育園で親子交流活動(体幹強化)や親学を実施した。コロナ禍により、保護者のつながりが薄くなっているため、継続して実施していくと良いと感じる。	保護者を対象とした家庭教育に関する研修会、学習会等の実施回数	1回	(3回) 2回	4回	B 概ね期待どおり	保護者の交流が少なくなってきたため、実施していくことが必要だと感じるが、単独での実施では参加者が少な気傾向にある。参加してみたい活動を検討していきたい。	
		23 学校を核とした地域づくりを目指した、学校・家庭・地域のネットワーク強化	・地域学校協働本部を整備し、学校運営協議会と連携・協働を促進 ・コーディネーター、社会教育士の養成	地域学校支援コーディネーターが学校や地域の要望を受け、活動のマッチングを行っている。これにより、ネットワークの強化が図られている。邑智地域55件 大和地域37件	大和、邑智それぞれの地域学校協働ネットワークへの参加団体(個人)数	82件	(92件) 92件	96件	B 概ね期待どおり	学校と地域の線的なつながりから、地域全体の面的なネットワークの充実を図っていく。	
				・公民館における多世代交流の充実 ・他部局(福祉、地域振興)、社会による教育施設、福祉施設・団体、自治会等の連携事業の充実により、多様な人々が交流する機会を設定	公民館の多世代交流事業の実施回数	6回	(5回) 16回	9回	A 期待どおり	既存事業に加え、スポーツ木登り等新規事業が実施され大きく目標を上回った。子ども中心の地域行事が定着することで、子どもも地域住民も楽しみややりがいを感じる。多世代の地域住民の交流、つながる場面を内容を工夫し、意図的に設定する必要がある。	
	③自主的・主体的な学の支援	25 地域住民が主体的に学べる学習環境を整備し、住民の生きがいづくり、仲間づくりを支援	・公民館講座の開講と学習成果発表の機会を提供 ・美郷大学の開催	教養講座での学習成果の発表会を開催したり、みさと館にて、全館で学習の成果をパネル展示により紹介を行った。	公民館の学習成果の発表や展示会等の実施数	1館	(7館) 4館	9館	B 概ね期待どおり	地域のイベント開催時に発表を行うなどし、目標には達しなかったが昨年度より多くの公民館で実施することができた。各公民館の実施、また受講生の活動発表の場を用意するという意識を持ち評価が感じ取れる工夫を更に進めていく。	
				図書館展示などで未利用資料の活用を行うことで、貸出につなげることができた。利用者に対して積極的に本の紹介を行うことで、口コミで町外の方からも来館される方が増えた。	図書館「みさと本の森」の貸出冊数	50,530冊	(57,500冊) 49,900冊	68,000冊	B 概ね期待どおり	遠隔地へのサービスを充実させるのはもちろんのこと、足元である本館のサービスも発展させていく必要がある。より一層、適切な資料の購入と職員のスキルアップを進めていく。移動図書館など努力は継続しているが、本を読むことが楽しみになるようにきっかけ作りを大切にしていきたい。	昨年度の貸出数の減の理由は、回答:昨年度の冊数が3年度と4年度の合計数となっていた。4年度の貸出数は44,865冊で、少し伸びている状況。
		26 町立図書館「みさと本の森」の機能充実	・移動図書館事業の充実 ・公民館と連携してブックカフェを開催 ・図書ボランティアや子育て支援センターと連携し、親子読書を推進	口コミによる利用者の増加。図書館環境の向上に向け、毎月、展示の変更を実施することで、また来たくなるような図書館を目指した。	図書館「みさと本の森」の登録者数	1,571人	(1,750人) 1,693人	2,000人	B 概ね期待どおり	引き続き、一般・団体に向けて有用性をアピールし、ただ本を借りるだけの場所ではないことが伝わるようにしていきたい。	
				より良いサービスを提供するに、職員の見学技術とコミュニケーション能力の必要不可欠なため、勉強会を定期的に実施した。また、移動図書館の日程は、できるだけ多くの方に来ただけするように工夫した。	図書館「みさと本の森」の移動図書館拠点施設数	9箇所	(13箇所) 11箇所	15箇所	B 概ね期待どおり	定期的な巡回先だけでなく、長期的なスパンで移動図書館を行える施設を掘り下げていくと共に、研修にも力を入れていきたい。	1箇所減になった場所について 回答:子育て支援センター(移動図書館から月1回図書館「たんけん本の森」へと変更になりました。)
27 スポーツを通じた青少年の健全育成と地域の活力醸成	・各種スポーツ大会、教室、体験会の開催 ・指導者の育成とスポーツ少年団活動の活性化 ・町民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進 ・2030国民スポーツ大会へ向けた機運の醸成 ・ジュニア対象カヌー教室の開催とカヌーサポーター制度を整備し、カヌー関係人口の増加を図る	蔵書について、今ある本の活用をしながら、リクエストを加味しながら、新しい本を購入した。利用者の希望する資料も、より多様化していると感じるため、県外の図書館にも依頼をし、資料を借り受けて対応した。	図書館「みさと本の森」の蔵書鮮度	6.3%	(12.0%) 6.1%	15.0%	C 課題あり	現状、寄贈の本に頼らなければ達成は難しいが、当館の利用に即したものが慎重な取捨選択が必要。鮮度を優先して需要が疎かにならないように対応していく。	蔵書鮮度について 専門家等にアドバイスをいただきながら、目標数値に向かって欲しい。		
		地域のイベントにおいて、読み聞かせやお話会を実施した。図書館ボランティアとの連携強化として、クリスマス会の際に協力していただいた。今後も引き続きその姿勢を継続して人員の充実を図りたい。	親子読書事業の実施回数	3回	(2回) 2回	3回	B 概ね期待どおり	今後も既存の事業は実施しつつ、新しいお話会を開催していきたい。親子活動について、継続して実施をすることで、本への愛着を育むことができるようにしていく。			
27	スポーツを通じた青少年の健全育成と地域の活力醸成	・各種スポーツ大会、教室、体験会の開催 ・指導者の育成とスポーツ少年団活動の活性化 ・町民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進 ・2030国民スポーツ大会へ向けた機運の醸成 ・ジュニア対象カヌー教室の開催とカヌーサポーター制度を整備し、カヌー関係人口の増加を図る	町体協各競技部は競技の普及を目的とした各種大会を開催。その他、スポレク祭カヌーフェスタをはじめ、剣道連盟においては町内中学校による合同稽古会を実施した。	美郷町スポーツ協会等団体による各種スポーツ大会、教室、体験会等の実施回数	7回	(9回) 9回	10回	B 概ね期待どおり	美郷町スポーツ協会の各々が大会を開催し、多くのスポーツ種目の普及の一助となった。また、体を動かすことと住民同士のコミュニケーションの機会となって、心と体の健康増進に寄与している。各種目において、競技人口の減少が課題となっているため、解決に向けた取り組みが必要である。	スポーツ協会に修正を要する。	
			スポレク祭カヌーフェスタの中で、カヌー体験レッスンを行い、産業祭ではエルゴマシーンでの計測会とVRIによるカヌー体験を行った。また、楽しく体幹を鍛える内容のイベントを開催し、その中にカヌー体験が出来る要素も入れて、カヌーに興味を持ってもらうように仕掛けた。	ジュニアを対象としたカヌー教室の開催数	0回	(2回) 3回	3回	A 期待どおり	カヌーに乗艇することは1回しか出来なかったが、エルゴマシーン体験と邑智中学校カヌー部の生徒や先生に話を聞いたり指導してもらうことができ、少しでもカヌーを知ってもらうことはできたと感じた。今後は実際にカヌー乗艇できる体験会を多く開催し、カヌーがもっと身近なスポーツであると感じてもらえる活動が必要である。	評価は、「A期待どおり」で良いのではないかと回答。課題はあるが、見直す。	
			カヌーに関わる人々を増やし、2025年インターハイ、2030年の国民スポーツ大会に向けて、大会の成功やカヌーの町づくりとしての地域振興の気運醸成に繋げる。スポレク祭、産業祭、ササノオマシクわがわしやタウンデー等、町内及び町外でのイベント時にカヌーの町づくりを紹介し、サポーター登録者獲得のための活動を行った。	カヌーサポーターの登録人数	58人	(60人) 106人	100人	A 期待どおり	多くの方にカヌー振興について知ってもらうことが、まず大事だと思う。その面での効果はあったと考える。ただ、登録はしたが、実際に活動することは難しいという方も居られると思うので、活動可能なサポーターを増やすことも考え、引き続きサポーター勧誘に努める。		